

- 磐田のすごい古墳！二子塚古墳・・・P1～2
- いわた 鉄道めぐり（第3回／全3回）・・・P3
- 文書館だより・・・P4
- コラム『甲子園へ！！』山室淳子・・・P4

文化財探偵は見た



遺跡を知る

ふたごづか

磐田のすごい古墳！二子塚古墳



文化財探偵とは、文化財の調査を通じ、さまざまな事件を解決するエージェント。

三ヶ野・三ヶ野台にある二子塚古墳群は、37基で構成される市内有数の規模の古墳群です。平成7～13年に区画整理事業に先立ち、33基が発掘調査されました。今回は、二子塚古墳群の中で最も大きい古墳『二子塚古墳（二子塚1号墳）』を特集します！

二子塚古墳とは

二子塚古墳は5世紀末頃（約1550年前）に造られた全長約55mの前方後円墳です。この時期、遠州地方では他に例を見ない規模であることや、出土遺物の内容などから、遠州地方で最も有力なクラスの人物の墓であったと考えられます。



二子塚古墳の空中写真



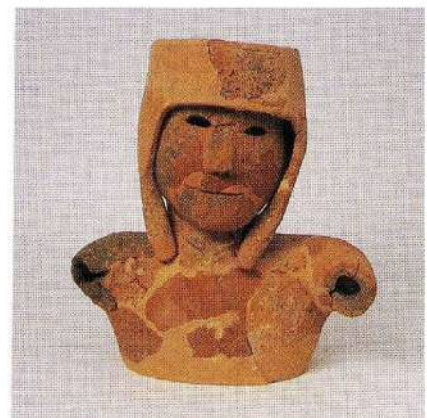
馬形埴輪の出土状況

磐田市埋蔵文化財センターの「顔」

磐田市埋蔵文化財センターに入ってすぐ右手のケースで、穏やかな表情をした埴輪が皆さんをお迎えします(※)。これは冠をかぶっていると思われる人物で、胸部に衣服の襟の表現が見られます。二子塚古墳の主の姿を映したものでしょうか。

また、右手にムチを持ち、左手を高く掲げている人物埴輪も見つかりました。馬形埴輪も出土しており、馬を曳く人をあらわしたものと考えられます。当時、馬は希少な動物で、馬形埴輪も静岡県内では全体の形がわかるものは2例しかありません。その他、鳥形埴輪などもあります。

※埋蔵文化財センターでは、不定期で展示品の入替えがあります。



冠をかぶった(?)人物埴輪

肩幅約26cm

## きらびやかな副葬品

二子塚古墳からは、明治時代に主体部（主の亡骸が葬られた施設）に納められていたと考えられる副葬品が発見されています。鏡の破片、玉類は生前、古墳の主が大切にしていたものでしょう。その他に馬具が出土しており、馬鐸5点、鈴杏葉2点、環鈴1点は、昭和37年に磐田市の文化財に指定されました。

二子塚古墳出土の馬鐸、鈴杏葉、環鈴は、いずれも青銅製品で現在は錆びて青緑色をしています。往時は光沢を放っていたことでしょう。飾馬を見て、当時の民衆が驚く姿が目には浮かびます。

また、馬形埴輪の尻部には、出土した鈴杏葉と同じものがデザインされています。鈴杏葉が、実際に取り付けられていた様子がわかります。馬鐸や鈴杏葉、環鈴はいずれも鳴り物ですから、馬が歩くたびに、にぎやかな音を奏でたことでしょう。



**馬形埴輪と馬を曳く人物の埴輪**  
人物の頭部及び馬の脚部は推定復元  
馬形の鼻先から尻尾の先端まで約 100cm

## 復元された古墳にのぼってみよう！

二子塚古墳一帯は、現在、二子塚公園になっています。墳丘が復元され、往時の古墳の巨大さが体感できるようになっていますので、訪れてみてください。

古墳に登ったり、古墳の周りを歩いたり、その大きさを確かめてみよう！



公園内に復元された二子塚古墳

# いわた 鉄道めぐり

## 第3回 中泉軌道の痕跡（全3回）

隔月でお届けしてきました「いわた 鉄道めぐり」、第1回は磐田駅の歴史を、第2回では明治40年（1907）年に開通し、昭和5年（1930）の廃線まで池田村（磐田市池田）と中泉間を結んでいた中泉軌道の歴史について紹介しました。シリーズ最終回の今号は、市内に残る中泉軌道の痕跡と逸話を紹介します。



中泉軌道の路線の一部が描かれた中泉周辺地図  
明治後期～昭和初頭／福田 平野登家所蔵

中泉駅  
(現磐田駅)

現在の中泉周辺地図

### 1 線路沿いから北西へのびる道

中泉軌道は、一部区間を JR 東海道本線と平行に線路があり、現在の久保踏切から北西へと斜めにはいっていました。現在でも、線路沿いから北西へのびる道が残っています。



中泉軌道の碑



久保踏み切りから、北西を望む

### 2 中泉軌道の碑

中泉保育園の北側の道の脇に「中泉軌道跡」と彫られた石碑があります。石碑の建つ道を含め、軌道のレールは、中泉地内では民家の間をぬうようにして敷設されていました。

### 3 旧東海道と合流して中泉から加茂へ

中泉軌道は、地図上の緑の円部分で旧東海道と合流します。北側の軌道が走っていた道は、廃線後レールが取り除かれた後に道が舗装されました。東海道の道幅は、軌道のレールを敷く際に拡張し、松並木が片側のみ残されたと伝わっています。



軌道が通っていた道（左）と旧東海道（右）の合流点



旧東海道と松並木



磐田市歴史文書館  
キャラクター  
文字朗

「平成30年（2018年）は、明治元年（1868年）から起算して満150年の年に当たります。この「明治150年」をきっかけとして、明治以降の歩みを次世代に遺すことや、明治の精神を学び、日本の強みを再認識することは、大変重要なことです。」（『内閣官房「明治150年」に向けた取り組み』より抜粋）

磐田市歴史文書館ではこの節目の年に合わせ、来年度夏季に「磐田の近代の幕開け」と題して、企画展を開催します。奇しくもこの年、当館の開館10周年にも当たり、より一層の力を入れて取り組みます。



「明治150年」  
ロゴマーク

さて、今から150年前の磐田ではどんなことが起こっていたのでしょうか。一つには、遠州地方の神官たちが「遠州報国隊」を結成し、徳川幕府の終幕に加わったという大きな出来事があります。一方、庶民にとっては、土地制度（物納から課税）や交通・通信網など社会生活が大きく変わるのがこの頃です。

企画展では庶民に視点を当て、磐田の近代の幕開けを語っていきたいと考えています。どうぞ、お楽しみに！

## 職員リレー コラム

### 甲子園へ！！

山室 淳子

いよいよ今月末から、春の選抜高等学校野球大会が始まります。我が家では、昨夏、次男の高校野球生活が幕を閉じ、長男も含め約12年に亘る野球応援生活（大会での応援・弁当作り・洗濯等）も終了しました。県内の球場や他校の運動場などに応援に行きましたが、特に、地元の磐田城山球場へ足を運んだ数は多く、数えきれません。

磐田城山球場といえば、徳川家康が築城を命令した城之崎城跡に造られた球場だと伝えられています。家康は、永禄12年（1569）遠江への進出を機に城之崎城の築城を始めましたが、武田軍に対し天竜川を背にするという戦略上の理由から（諸説あり）途中で断念し、翌年、浜松城を造っています。

磐田市内の各高校野球部は、残念ながら全国大会出場（甲子園出場）を果たしていませんが、大会や練習などで磐田城山球場を使用し、全国大会出場に向けてがんばっています。全国制覇を果たした家康と縁のある球場をもつ磐田の地から、全国大会（甲子園）へ行く高校が出てきてほしいと切に願っています。



現在の磐田城山球場（城之崎城跡）と見付の町並み

編 集 後 記	馬形埴輪が好きです！二子塚古墳を初めて知った時の衝撃・・・タイムマシンが出来た暁にはぜひ在りし日の姿を見たいです。	発行：磐田市教育委員会事務局教育部 文化財課（磐田市埋蔵文化財センター） 住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1 電話：0538-32-9699 ◆WEB版は市HPから閲覧できます。
------------------	---	--